

「特別支援教育サポーター」の東広島市の小中学校への
派遣事業について

広島大学では、通常の学級で支援が必要な児童生徒へのよりきめ細やかな対応と学生の教育実践力向上をめざし、平成 14 年度から、東広島市教育委員会との連携のもと、本学の学生を「特別支援教育サポーター」として学校現場へ派遣しています。

平成 23 年度文部科学白書によれば、精神疾患により病休を取る教職員が増加し続けており、発達障害児の増加や、社会的格差の増大による家庭環境の悪化などが、その原因と考えられています。学校内での暴力行為の件数は、平成 18～20 年度の 3 年間で、小学校で 1.7 倍、中学校で 1.4 倍にも達していて、生徒指導ができない教員は良い授業ができない状況にあると言っても過言ではありません。

一方、初任教員の病休や退職も増えており、市町の教育委員会では、教育費の削減や教育ボランティアの数と質の問題などで、担任が苦戦している学級への支援が十分行われていない状況です。

広島大学教育学研究科特別支援教育学講座・附属特別支援教育実践センターは、東広島市教育委員会からの支援の要請に応える形で、本学の学生を「特別支援教育サポーター」として学校現場へ派遣しています。具体的な業務内容は、ティームティーチング授業のサブティーチャーとしての役割が主であり、学生が、苦戦している同一学級に恒常的に平均週 2～3 回入れるシステムは日本でも珍しく、学生は貴重な「実習」を行っています。

また、本センターでは、介護など体験の事前指導や講義などを通して本事業への参加を促しています。手引きを配布し、学校現場での心構えを教えたり、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥/多動性障害）などの疑似体験をさせたり、派遣先の学校での支援で悩んでいる学生への指導を行うことで、即戦力と弾力性のある教員の養成に努めています。本事業のこれまでの実績は、市内の幼稚園 2 校、小学校 12 校、中学校 6 校、高等学校 1 校に学生を送り、年間派遣数は最大、88 人に及んでいます。

【お問い合わせ先】

特別支援教育実践センター長 落合 俊郎
TEL:082-424-7177、FAX:082-424-7177